

観光産業の創出支援から地域発展へ繋げるコワーキングスペース運営の取り組み (一般社団法人東京北区観光協会)

1. 課題

北区には地域に根差した豊かな観光コンテンツになり得る要素がある一方で、誰もが知っている観光資源が多いわけではなく、生活・仕事の場としての側面が強い地域であったため、地域内での観光による地域活性化や観光産業への期待は高くなかった。しかしながら昨今では、様々な世代が長く住み続けられるまち、訪れて楽しいまちをつくるためにも、観光を切り口として地域特性を活かした魅力をつくっていくことが求められていた。

2. 観光協会設立と観光人材創出機能としてのコワーキングスペース開設

2017年4月、北区の観光を推進していくにあたり、官民横断的な役割を果たす中核的推進組織として、また、民間ならではの視点と手法で新しい北区の価値をつくる会社として、東京北区観光協会が設立された。今や国内における大きな成長産業であり、街づくりには欠かせない視点でもある「観光産業」を創出するため、東京北区観光協会では、「地域情報の収集・発信」「観光イベントの企画・運営」等、従来型の観光協会が担ってきた役割に加え、「観光に係る人的育成・団体・事業者等の支援と誘致」を事業内容の中核の1つとして掲げることとした。その具体的事業の1つとして取り組んだのが、観光を切り口に地域活性化を目指す人たちにに向けたコワーキングスペース「Satellite Base」の運営である。ここでは、北区の地域観光に関する仕事を行うイベントコーディネーターやデザイナー、ベンチャー企業、スタートアップ企業、また地域の人々が集まって仕事や打合せができるラウンジスペースの提供を行っている（現在はプレオープン中で、本格オープンは2019年4月予定）。地域を盛り上げようとする人たちが働きやすい環境と交流の場を用意することが、北区の新たな産業を「観光」というキーワードにより生み出し、地域発展に繋がっていくという考え方である。

3. 旧来の「観光」に囚われない視点で新たな価値創造に繋げる

東京北区観光協会では、独自事業を積極的に実施することを目指しており、短期計画と中長期計画をそれぞれ作成している。区からの委託事業など従来型の観光協会として必要な事業は短期計画とし、5～10年後の中長期計画については、「東京北区観光協会として、あるべき姿・実行すべき事業」の構想を「観光2.0」というキーワードの中にまとめている。「観光2.0」とは、従来型の観光協会が実施している内容を「観光1.0」とすると、その枠を超え2.0を目指すという考え方のもと、「様々なエンターテイメントが集まる街」「海外・区外から人が集まる街」「IoTが駆使された街」「地域を盛り上げる人材に溢れた街」を実現するために設定した実施項目をまとめたものであり、この中には、まさに「観光」で地域課題を解決するアイデアと想いが詰まっている。そのアイデアを具現化するために、コワーキングスペースを運営し、オープンイノベーションによる事業加速化、新規事業の立ち上げや創業の促進を狙っている。

《おわりに》

東京北区観光協会は都内の観光協会としては後発組ですが、だからこそ、旧来の「観光」に囚われない民間視点で地域課題と向き合い、「行政では手の出しにくいこと」にも積極的に取り組むことで地域の新たな価値創造に繋がけようとしています。

先に挙げた「観光2.0」の中には、ここでは紹介しきれないほどの多くの構想に溢れています。今後、どのような形で具現化され、私たちの前にお目見えするのか、想像するだけで楽しみです。（地域支援窓口 区部担当：佐々木）

◆関連リンク 東京北区観 HP：<http://prkita.jp/>
(参照資料)：東京北区観光協会事業概要／「北区観光振興プラン」
／「東京都北区平成30年度予算案の概要」

